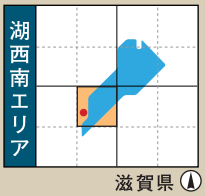
史跡
国指定

日吉神社境内（ひよしじんじゃけいだい）

大津市坂本本町　昭和48年10月9日指定



日吉神社は、山王権現（さんのうごんげん）、日枝（ひえ：比叡）大社とも呼ばれるように、もとは、比叡山を神体山とする祭祀の場でした。様々な歴史的な変遷をたどりながらも、山王七社を中心として、今なお、古代の様々な祭祀の形態をそのまま伝える貴重な史跡です。

当時のできごと	
668年	中大兄皇子即位 天智天皇となる
794年	平安京に遷都する
1571年	信長延暦寺を焼き討つ

日吉神社の概要

日吉神社は、比叡山を神体山とする神社で、延暦7年（788）延暦寺が開かれてからは、その守護神として発展し、天皇家を始め貴賤の崇敬を集め、その末社は全国に3800カ所余りに及びます。神社は、東本宮、西本宮の両社を中心とした7社（山王七社）を中心として発展してきました。東本宮の祭神は大山咋命（おおやまくいのみこと）で、小比叡と呼ばれる、山頂に磐座（いわくら）を頂く、牛尾山（八王子山）を神体とした、古い信仰の形態を残しています。これに対して、西本宮の祭神は大己貴命（おおなむちのみこと）で、天智7年（668）に大和の大三輪の祭神をむかえ、大津京の守護としたと伝えられ、後にむかえた宇佐宮、白山姫神社とあわせて、在地性の強い神々を祀る東本宮とは、趣を異にする祭祀が行われています。

現在、東本宮4社、西本宮3社の本殿、拝殿を始め日吉三橋、神輿など数多くが国宝、重要文化財に指定されており、日吉神社の歴史の深さと、格式の高さをうかがうことができます。



神体山　八王子山



初夏の境内



秋の境内

日吉神社の祭祀

日吉神社は、比叡山を神体山としますが、その中腹にある円錐形の整った山容の牛尾山（八王子山）が、それよりも古く信仰されていました。この山の山頂近くには、神の降臨すると考えられる金大巌（こがねのおおいわ）と呼ばれる巨岩があり、これをとりまいて牛尾宮（うしおぐう：男神）、三宮（さんのみや：女神）が建っています。これらは、後にふもとにも祀られ、牛尾宮は東本宮に、三宮は樹下宮（このもとぐう）となり、山上の二社は上宮、ふもとの二社は下宮と呼ばれ、男神には比叡山の地主神である大山咋命が、女神には玉依姫（たまよりひめ）があてられ、祀られるようになります。湖国に本格的に春の訪れを告げる日吉山王祭の午（うま）の神事では、大山咋命と、玉依姫の乗った2基の御輿が牛尾山を降り、下宮の東本宮の拝殿に並べられ、結婚の神事が行われます。また、大政所（おおまんどころ）で行われる「宵宮落とし」の神事は、若宮の出産の苦しみを現したものといわれています。農耕に関する古い神事は、男女神の豊穣を祈念する性の祭典を基本としますが、日吉神社の東本宮に伝えられる神事は、太古以来の古い祭祀の形態をよくとどめています。



樹下神社と東本宮



日吉三橋（走井橋）



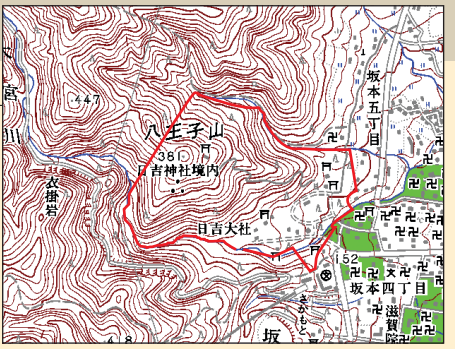
日吉三橋（大宮橋）

関連する文化財

延暦寺境内（大津市）	学習シートNo.004
唐崎神社境内（大津市）	学習シートNo.094
大神神社（奈良県桜井市）	オオモノヌシノミコトを祀る古社。日吉神社との関連が深い

もっと深く知りたい

大津市歴史博物館　　☎077-521-2100　大津市御陵町2-2



日吉神社境内へのアクセス　JR湖西線　比叡山坂本駅下車
京阪電鉄石坂線　坂本駅下車

【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔大津の文化財〕大津市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月